

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成28年6月16日(2016.6.16)

【公開番号】特開2014-214270(P2014-214270A)

【公開日】平成26年11月17日(2014.11.17)

【年通号数】公開・登録公報2014-063

【出願番号】特願2013-94354(P2013-94354)

【国際特許分類】

C 08 F 290/06 (2006.01)

C 08 G 18/67 (2006.01)

【F I】

C 08 F 290/06

C 08 G 18/67

【手続補正書】

【提出日】平成28年4月20日(2016.4.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

少なくとも下記化合物(A)、化合物(B)及び化合物(C)を反応させて得られるウレタン(メタ)アクリレートオリゴマーと有機溶媒とを含む硬化性樹脂組成物であって、該化合物(B)を全ジオール成分の40重量%以上用いることを特徴とする硬化性樹脂組成物。

化合物(A)：脂環式構造を有するポリイソシアネート

化合物(B)：炭素数8～16の鎖状脂肪族ジオール

化合物(C)：ヒドロキシアルキル(メタ)アクリレート

【請求項2】

前記ウレタン(メタ)アクリレートの数平均分子量(Mv)が500～15,000である、請求項1に記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項3】

前記化合物(B)として炭素数8～16の直鎖状脂肪族ジオールを含む、請求項1又は2に記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項4】

前記化合物(C)としてヒドロキシアルキルポリ(メタ)アクリレートを含む、請求項1乃至3のいずれか1項に記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項5】

前記有機溶媒の溶解度パラメーターが8.0～11.5である、請求項1乃至4のいずれか1項に記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項6】

前記ウレタン(メタ)アクリレートオリゴマーが、前記化合物(A)と化合物(B)を反応させてウレタンプレポリマーを得た後、これに前記化合物(C)を反応させて得られたものである、請求項1乃至5のいずれか1項に記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項7】

請求項1乃至6のいずれか1項に記載の硬化性樹脂組成物が硬化した硬化膜。

【請求項8】

少なくとも下記化合物( A )、化合物( B )及び化合物( C )を反応させて得られるウレタン(メタ)アクリレートオリゴマーと有機溶媒とを用いる硬化性樹脂組成物の製造方法であって、該化合物( B )を全ジオール成分の40重量%以上用いることを特徴とする硬化性樹脂組成物の製造方法。

化合物( A )：脂環式構造を有するポリイソシアネート

化合物( B )：炭素数8～16の鎖状脂肪族ジオール

化合物( C )：ヒドロキシアルキル(メタ)アクリレート

**【請求項9】**

前記ウレタン(メタ)アクリレートの数平均分子量(Mv)が500～15,000である、請求項8に記載の硬化性樹脂組成物の製造方法。

**【請求項10】**

前記化合物( B )として炭素数8～16の直鎖状脂肪族ジオールを用いる、請求項1又は2に記載の硬化性樹脂組成物の製造方法。

**【請求項11】**

前記化合物( C )としてヒドロキシアルキルポリ(メタ)アクリレートを用いる、請求項8乃至10のいずれか1項に記載の硬化性樹脂組成物の製造方法。

**【請求項12】**

前記有機溶媒として、溶解度パラメーターが8.0～11.5であるものを用いる、請求項8乃至11のいずれか1項に記載の硬化性樹脂組成物の製造方法。

**【請求項13】**

前記ウレタン(メタ)アクリレートオリゴマーとして、前記化合物( A )と化合物( B )を反応させてウレタンプレポリマーを得た後、これに前記化合物( C )を反応させて得られたものを用いる、請求項8乃至12のいずれか1項に記載の硬化性樹脂組成物の製造方法。

**【請求項14】**

請求項8乃至13のいずれか1項に記載の製造方法により得られた硬化性樹脂組成物に活性エネルギー線を照射する硬化膜の製造方法。